

1 高尾山の紹介

(1) 人気のスポット

東京都八王子市にある「高尾山」は、関東地方と中部地方にまたがる関東山地のうち、秩父山地の南東端に位置し、都心の新宿から西へ約50kmの場所にあり、電車で約1時間という交通の便に恵まれ、日帰りでもゆっくりと楽しめる山です。

標高599mという低い山ですが、山頂からは神奈川県相模原市などの街並や、遠く江の島などを眺め、富士山も見ることができ、その景観も素晴らしく、2005(平成17)年には関東の富士見百景に選定されました。

また、2007(平成19)年には、ミシュランガイドで、最高ランクの“三つ星”の観光地に選出され、年間の300万人を超える登山者が訪れる人気の山です。

山麓からはケーブルカー、リフトで山腹の8合目付近まで登ることができます。また、山麓から山頂まで歩いて登るコースが3ルートあり、いずれも100分ほどで頂上に達することができます。

年間300万人も訪れる理由は、服装にあります。街で見かける普段の服装と変わらないんです。夏だと半ズボンにTシャツ、サンダル履きで登れるのです。それは、登山道に秘密があります。1コースだけ麓から頂上まで全線舗装されているのです。中には、犬を連れている人やベビーカーを押して登る人もいます。このように気軽に登れる山なのです。



高尾山山頂から富士山を望む



全線舗装されている1号路

(2) 歴史

高尾山は、1927(昭和2)年に日本百景に選定され、1950(昭和25)年には「都立高尾陣馬自然公園」、1967(昭和42)年には「明治の森・高尾国定公園」に指定され、1976(昭和51)年には「高尾山自然休養林」として設定されました。

また、高尾山は東京近郊の行楽地として有名ですが、元来は修験道の霊場であり、現在は真言宗智山派大本山高尾山薬王院有喜寺の寺域となっています。そのため、古代からの森林が守られてきました。中世には、八王子城主北条氏照による「本山の竹木の伐採を禁じる」という制札が薬王院に残されており、江戸時代にも幕府直轄領となり八王子代官・大久保長安が山林保護政策をとり、その書状が同じく薬王院に残されています。その後、薬王院の境内以外は帝室御料林となり、戦後には国有林となって、現在でも大切に管理・保全されています。



薬王院 本堂

(3) 地形・植生・生態系

高尾山の地形は急峻で、地質は砂岩と粘板岩により形成された、関東ローム層を母材とする褐色森林土です。気候は、海洋性気候から内陸性気候へ移行する地域で、年平均気温13度、年平均降水量1,660mmで南斜面と北斜面に分かれ、暖温帯林と冷温帯林が尾根筋で分かれる地域となっています。

植生は、北斜面が冷温帯林でブナ・イヌブナ・カエデ類・シデ類の落葉広葉樹とモミ・アカマツの針葉樹が混在しています。南側斜面は、カシ類・スダジイ・ヤブツバキ等の常緑広葉樹と針葉樹のモミが混生しています。

植物も豊富で、国内で4,700種のうち高尾山には1,600種も存在しています。全国の3割以上も存在していることとなります。また、タカオという名前の付く植物も多数あり、タカオスミレ・タカオヒゴタイ・タカオイノデなど高尾山で最初に発見された植物で、その季節に応じて色々な花を咲かせて楽しませてくれます。

植物が多いことから、それだけそこに住む動物や昆虫が多いといえます。動物については、ほ乳類・両生類・は虫類で30種類、野鳥では70～80種、昆虫については4,000～5,000種もいて、京都の貴船山、大阪の箕面山とともに我が国の3大昆虫生息地として知られています。

動物と昆虫の写真提供:大作業一郎氏



秋の紅葉
尾根筋で植生が分かれています



美人ブナと呼ばれて
います



尾根筋にある登山道
北斜面と南斜面に分かれています



タカオヒゴタイ

葉っぱがバイオリンの形に似ています



タカオスミレ



キレンジャク

ヒレンジャク



サンヨウチョウ



マメコガネ



ヒメヤママユ

ヤマザクラ

ヒゲナガオトシゴミ



ムササビの剥製



ニホンザル



アナグマ



タヌキ



アサギマダラ

何千kmも旅をすることで有名です

2 高尾森林ふれあい推進センターの紹介

(1) 沿革

1986(昭和61)年3月、森林や緑に対する価値観が多様化・高度化する中で、日頃、森林・林業に接する機会が少ない都市市民等を対象に、森林・林業についての知識の普及のため、また国有林野事業の緑のインフォメーションセンターとして、国は「高尾森林センター」を設置しました。

2013(平成25)年4月には、一般会計化に伴い公益的機能のより一層の発揮、地域の森林・林業再生への貢献のために必要な体制を強化するため、内部組織を見直して「高尾森林ふれあい推進センター」に改称しました。

(2) 森林環境教育

次代を担う子どもたちや森林・林業に興味のある一般の方を対象に、森林内での体験や活動などを通じて、人々の生活や環境が森林とどのように関係しているかを、楽しみながら理解できるよう、高尾山の国有林と施設を活用して森林・林業を体験し、学習する「森林環境教育」を無償で実施しています。

① 森林教室

小学生を対象に森林学習、丸太切り、森林観察、樹木生長の仕組み、炭焼き体験、クラフト体験等を行うことができます。なお、クラフト体験は、幼稚園・保育園生以上が対象です。



森林学習



丸太切り



森林観察



樹木生長の仕組み



炭焼き体験



クラフト体験

② 職場体験、体験林業

職場体験は、中学生を対象に、当センターで実際に行っている業務の中で、森林教室の手伝いや林道の草刈り、歩道の修理などの仕事を体験するものです。

体験林業は、中学・高校・大学生、地方自治体職員等を対象に、間伐や下刈等の作業の体験や森林・林業の現状等についての講義の受講などです。



林道の草刈り



歩道修理



風倒木処理の補助作業



薪割り体験



下刈鎌の刃研ぎ



間伐体験

③ 森林カレッジ

一般の方を対象に、地球温暖化防止など森林の多面的機能、森林資源の循環利用の必要性等に対する理解を深めるため、専門家の講義や林業の作業などを通じて、人々の生活や環境と森林との関係について学ぶほか、森林観察、下刈・間伐作業、炭焼き体験ができます。

年4回実施して、終了後には関東森林管理局長から委嘱を受けて当センターのボランティアスタッフとして活躍していただくことができます。



森林観察

下刈作業

間伐作業

炭焼き体験

(3) 森林ふれあい推進事業

国有林のフィールドと施設を利用して森林とふれあうことができる「森林ふれあい推進事業」のイベントを民間の5団体と関東森林管理局長が協定を締結して、年間を通して様々なイベントを実施しています。



森林インストラクター
東京会

森とでんえん
倶楽部

DAIGO
エコロジー村

森と人との
ネットワーク



高尾
パークボランティア会

団体名	イベント回数	募集定員
森林インストラクター東京会	21回	710名
森とでんえん倶楽部	4	160
DAIGOエコロジー村	4	90
森と人とのネットワーク	4	160
高尾パークボランティア会	8	310
計	41回	1,430名

(4) 施設の紹介

① 高尾森林ふれあい推進センター

2007(平成19)年3月に地元多摩産材をふんだんに使用して建築された木造二階建ての施設で、1階には展示室、クラフト体験室を設置し、無料でクラフト作りを体験できます。2階が事務室になっています。

京王高尾線高尾山口駅から徒歩5分の所に位置し高尾599ミュージアム(八王子市立自然史博物館)が隣接しています。



クラフト体験室

展示室

② 森林ふれあい館

2002(平成14)年3月に大平国有林の中に建築された、湾曲半ヴォールト型(かまぼこ型を半分に切ったような形)と森の中につき出したような形のルームを備えた2つのゾーンからなる施設で、主に森林教室の森林学習や開校式・閉校式等で利用されています。また、周辺の森林では丸太切り、森林観察、体験林業等を実施しています。

2004(H16)年度グッドデザイン賞
建築デザイン部門賞受賞



③ 日影沢キャンプ場

1985(昭和60)年に国際森林年が決定されたのを記念して、同年に高尾山国有林内に整備されました。

当センターが管理運営しているキャンプ場で、上段と下段の2段式になっており、約85名、テント17張りが無料で利用可能です。なお、完全予約制になっています。



④ 自然学習体験施設(炭焼き小屋)

日影沢キャンプ場が設置された翌年(1986(昭和61))に、同キャンプ場から徒歩10分ほど林道を上った所に、ドラム缶窯4基、伏せ焼き窯2基が設置されました。今の屋根付きになったのは2005(平成17)年で、森林教室や森林カレッジ等で炭焼き体験を実施しています。



(5) フォレスサポートスタッフ(FSS)

当センターで実施している森林教室や体験林業等のイベントをサポートしていただくため、一般公募により一定の条件を満たした方々に関東森林管理局長が委嘱する森林ボランティアが「フォレスサポートスタッフ(FSS)」の皆様です。当センターと協働して、森林観察、丸太切り、炭焼き体験等の技術支援や安全確保など、森林環境教育の充実と安全な運営に努めています。

緑のベストと腕章を着用して、各種イベントに協力していただいています。



3 「森林は友達！作文コンクール」について

当センターや茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県に所在する各森林管理署等で行った森林教室や体験林業等に参加した小学生を対象に体験を通じて感じたこと、思ったこと、学んだことを作文にすることによって、森林・林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的として、森林作文コンクール実行委員会（一般社団法人東京林業土木協会と関東森林管理局東京事務所）が毎年度実施しています。2018（平成30）年3月に第21回の表彰式が行われ、最優秀賞の林野庁長官賞をはじめ、優秀賞、努力賞の30名が表彰されました。



作文コンクールに参加したひと全員に配られる温度計です。毎年、動物や昆虫の絵は変わります。

4 最後に

小学生が書いてくれた作文に、今まで森林や自然や環境に興味が無かった子どもたちが森林教室を受けて、地球規模で起こっている温暖化を防ぐには、電気の無駄使いやゴミをできるだけ出さないことで、二酸化炭素を減らすことができることを学び、思い、考えてくれました。

また、中学生や一般の方が下刈や間伐の作業を体験しての感想は、非常にきつくて体力と技術が必要な仕事であること。そして、林業を経営するうえでは必要な作業であることを理解していただきました。

このように、森林環境教育、森林ふれあい推進事業は、森林・林業に少しでも興味を持っていただき、親しみ、ふれあい、学び、理解して、一人一人がどのように取り組んでいくのかを考えていくことが重要だと思います。そして、森林の働きや林業のことを少しでも理解していただくことが高尾森林ふれあい推進センターの使命だと考えています。